

第1回置賜定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

【日時及び場所】

日 時 令和元年11月12日（火）10時～11時30分
場 所 伝国の杜 小会議室

【出席者】

委 員 尾形健明委員、清野雅好委員、亀岡淑子委員、我妻行芳委員、
柴田正孝委員、小川正昭委員、松田圭悟委員、中井晃委員、
鈴木和他委員、宮原博通委員、高橋和衛委員、守屋由美委員、
米野斉巳委員（水野由利子委員、佐藤みさ子委員、遠藤央子委員、
藤倉利英委員 欠席）

オブザーバー

置賜総合支庁総務課連携支援室長、長井市総合政策課長補佐、
南陽市みらい戦略課長、高畠町企画財政課長補佐、
川西町未来づくり課長、小国町総合政策課長、白鷹町企画政策課長補佐、
飯豊町企画課総合政策室長

事務局 米沢市企画調整部長、総合政策課長、総合政策課長補佐、
総合政策課企画調整主査、総合政策課主任、
置賜広域行政事務組合総務課長、総務課企画財政係長、
総務課企画財政係主任

米沢市担当課

高齢福祉課長、観光課長、農林課長補佐

【次第】

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
(1) 置賜定住自立圏共生ビジョンの改定について 資料1
(2) 主な事業の進捗状況について 資料2
(3) その他
- 4 その他
- 5 閉会

【議事録（要点筆記）】

2 会長あいさつ

昨年の8月から共生ビジョンの策定に入り3月末に完成したが、その中で「つながる置賜ともに明るい未来へ」というキャッチフレーズを作った。ラグビーでワンチームという言葉もあったが、そのような気持ちで置賜の発展のために頑張っていきたいと思っている。引き続き委員の皆様のお力添えをいただきたい。

3 議事

(1) 置賜定住自立圏共生ビジョンの改定について
事務局 資料1に基づき説明。

会 長 今回の説明に対して質問、意見があればいただきたい。

委 員 やすらぎ荘について、民設民営に変えたいと検討していたが、説明会には来たが応募がなかったということでやむを得ないと思う。なぜだめになったか話してできることがあればお聞きしたい。

事務局 説明会には複数の事業者が来たということで、ある程度関心はあったということだと思う。職員確保の困難さや財政事情などがあり、応募に至らなかったと聞いている。

会 長 民設民営は今回はだめだったが、ビジョンが5年間続くとすれば、その間でまた検討するということはあるのか。

事務局 今回、新たな施設を置賜広域行政事務組合で整備することになるので、一旦区切りがつく。新たな施設を更新する際に改めて民設民営について検討することになると思う。

(2) 主な事業の進捗状況について

事務局 資料2に基づき説明。

会 長 今回の説明に対して質問、意見があればいただきたい。

委 員 現在、置賜管内で成年後見制度を利用している方、手続き中の方は何人くらいか。置賜管内で障がい等で判断能力が十分でない方の人数は把握しているか。

担当課（高齢福祉課） 成年後見制度は家庭裁判所の所管であるが、利用者数は公表していない。人口の0.1%程度の需要はあるのではないかということが言われている。成年後見制度の対象と想定されるのは、療育手帳、精神保健福祉手帳の所持者となると思うが、置賜管内では、療育手帳1,774名、精神保健福祉手帳1,139名となっている。ただし、この方全てが対象となるわけではなく、個別ケースで判断する必要があると考えている。

委 員 米沢牛の振興について、取組内容に「消費流通宣伝を積極的に行い」とあるが、情報発信するとき、旅行情報とのリンクであるとか、観光資源とコラボして米沢牛をうまく取り込んで企画していくなど、その辺の内容もお伺いできたらよかった。また、広域観光の推進について、進捗状況の報告に数字や時間軸を取り込んだものをご説明いただくとよかったと思う。解析というキーワードも出てきたが、何をどう解析して、その結果数字的にはどういう状況にあるのか、進捗が目標のどの辺にあるのかを伺えるとよかった。

担当課（農林課） 米沢牛の宣伝については、米沢牛銘柄推進協議会を主軸として首都圏でのPRや食肉雑誌でのPRを行っている。ご指摘のあった旅行商品とのコラボ等も今後検討していきたい。

担当課（観光課） 広域観光に関して専門家に委託している分析については、現在主にデータの収集作業を進めているところであり、今後、集約をして分析などを加えた上で改めてご報告したいと考えている。今あるものでは、入込数や売上げのデータがある。昨年の入込数は年間170万人（目標85万人）だったが、今年も順調に推移しており、10月22日現在で300万人を達成した。今年は昨年を上回る入込数で、上半期だけで10万人程上回っている。それに比例して、売上げも昨年の倍以上を見込んでいる。また、適時、駐車される車のナンバー調査を実施しており、最近では週末や祝日を中心に県外からのお客様が多くなっている。その中でも関東方面、特に北関東からのお客様が多い状況である。

会 長 入込数はどうやってカウントしているのか。

担当課（観光課） 入口4か所全てにセンサーを付けており、そこを通過する方をカウントしている。ナンバープレート調査とも比較しながら、ほぼきちっとしたデータという形で提供させていただいている。

会 長 リピーターの方は数えられるのか。

担当課（観光課） そこまでの分析には至っていない。車のナンバーの出入りを機械的に読み込み、滞在時間や詳細な地域別のエリアなどを分析できないか、今後の課題として専門家とも相談している。

会 長 AI や ICT、ビッグデータの活用は大切になるので、是非頑張ってもらいたい。

委 員 置賜で成年後見センターを作りたいというのは、成年後見人になる人が、弁護士や司法書士だけでは少ないので、専任のセンターで受けるような体制を作ろうとしているということか。ビジョンの予算を見ると設置をした後の経費がでていないが、設置後の経費は、成年後見人としての手数料で運営ができるとみているのか。また、専門職の配置はどのように予定しているか。

担当課（高齢福祉課） 置賜で成年後見センターを作り、成年後見制度を広報するのが一番必要なことだと考えている。また、センターで法人後見を受けたり、市民後見人を3市5町に配置したりするなど、後見人の受け皿を広げていくことも必要である。

事務局 ビジョンには、視察や勉強会など、設立の検討に向けた準備のための経費をあげており、設立後の費用分担については今後検討し、改めてビジョンに掲載する予定である。

会 長 法定後見制度の場合、費用が10万円前後かかるという。費用で敬遠する人が出てくるのではないか。

担当課（高齢福祉課） 後見人の方への報酬ということである程度の費用がかかるケースがある。費用は所得状況も考慮した上で家庭裁判所が決定する。また、自治体で補助を出しているところもある。

委 員 観光商品の造成は道の駅とDMOがやっていて、プロモーションは山形おきたま観光協議会とDMOが中心にやっているという図式が見えるが、各々の組織連携、情報連携はあるのか。

担当課（観光課） 旅行商品の造成については、資格が必要な関係でやれるところは限られている。長井観光局で資格を取得しており、道の駅も開業に合わせ、米沢観光コンベンション協会を取得している。地域に密着した旅行商品の造成を進めており、11月から新たに専任職員を増員し、商品数の増加や催行率を高めるなどの努力をしている。長井観光局でも百秋湖での水陸両用バスが好評を得ていると聞いている。2つの観光を取り扱うセクションが相互販売するなどの連携をしながら、置賜管内全域を見据えた旅行商品の造成を進めている。

委 員 連携はどうやってとっているのか。

担当課（観光課） 具体的には存じ上げていないが、米沢の道の駅に相談をしていただくと、長井観光局の商品も購入できる仕組みになっていると聞いている。

委 員 長井ではDMOとしてやまがたアルカディア観光局がある。ダムの三淵観光は人気があるが、この受付が、山形鉄道の長井駅やバスが発着する道の駅でできず、まなび館でしかできないのは不親切だとお叱りを受けた。DMOで連携していると言いながら、どこか1か所で受付や調整ができるというサービスをやっていなかったという反省点があった。道の駅米沢でもまちナビカードを置いているが、紹

介するだけでなく、そこで受付や調整ができるようなサービスを作らないと連携ができないのではないかと思います。

会 長 道の駅米沢で受付をして、ほかの場所で観光できるような事例はあるのか。

担当課（観光課） 道の駅米沢で、長井 DMO の商品を販売させていただいた実績はある。

委 員 成年後見制度について、障がい等の手帳をお持ちの方以外に、認知症の方を考えるともっと利用者が多くなるのではないかと思います。その辺りの見通しはどうなっているか。

担当課（高齢福祉課） 認知症の方の正確な人数の把握は難しいが、介護認定の作業の中で、主治医の方が判定した認知症の度合いで考えると、米沢では 4,000 人程度となっている。成年後見センターで対象として一番多いと考えているのは、認知症に限らず高齢者の方となっている。高齢者の方にどのように周知していくかが肝要だと思っている。障がい者施設や介護事業所を通して周知していくことで効果が発揮できると考えている。

会 長 一人暮らしで家族もいない方が認知症になった場合は、施設に入るかどうか決められないが、そういう場合はどうなるのか。

担当課（高齢福祉課） 成年後見制度だけでなくかなり広い話になると思うが、3市5町それぞれで、地域包括支援センターを設置し、地域での支えあい、助け合い、見守り体制を構築している。そのほかにも、民生委員などにご自分で相談していただくのが基本となる。隣の方が心配だとなれば、そういった機関につなげていただくことをお願いしたい。

委 員 権利擁護支援が必要な方の発見ということと関係すると思うが、ここで問題になってくるのが、民生委員と個人情報保護の関りである。個人情報保護が足かせとなり、なかなか情報が入ってこない中で、地域包括支援センターなどで把握している情報を民生委員に流していただけるかどうかが大事になると思うが、その辺はどのように考えているか。

担当課（高齢福祉課） 個人情報保護法でいうと、こちらで持っている情報を全て出せるかというハードルがあるのが現実である。ただ、権利擁護支援が必要な方を発見した際、市役所や介護事業所で毎日そこに通って見守るのは難しいというものもある。ご本人の了承を得た上で、民生委員や町内会長などに、その方を支援するチームに入ってもらうことも考えられる。

委 員 道の駅米沢の玄関に車いすが数台置いてあるが、車輪がチェーンで固定され南京錠が付けられている。障がい者の方がこれを目にしたときに、自分の足に鎖が付けられているような感じがしたという話を聞いた。また、トイレの鏡の位置が高いなど、障がい者の方の目線を配慮していただければと思う。

委 員 米沢観光コンベンション協会では、総合観光案内所を受託しており直接関係はないが、オープン当初、車いすが持っていかれたことがあったと聞いた。案内所に申し出ていただくと使えるようにできるが、なお、ご不快にならないようなことを申し伝えたいと思う。

会 長 道の駅には意見箱のようなものはあるか。

担当課（観光課） 開業当初は意見箱を設置していたが、現在の状況は把握していない。ただ、対面で観光コンシェルジュが常時お客様の対応をしているため、それを毎月集約し、必要な改善についてはできるところから対応している。意見箱の設置については検討する。また、先ほど話のあったトイレの鏡については、多目的ト

イレの鏡が車の利用者の利用者にとって高い位置にあるというご指摘を受け、低い位置に設置し直した。

委員 委員の任期は5年ということで、これ以降の展開などをその都度確認していくということか。

事務局 委員の皆様の任期は2年間となっており、まずは来年の8月までが任期となっている。ビジョンの計画期間は5年のため、毎年、進捗状況やビジョンの改正点についてご説明しながらご確認いただくことになる。

委員 道の駅米沢は業績を伸ばしており、いろんなシステムが上手く作動しているのだと思う。このシステムを既存の道の駅や観光施設でも可能な範囲で共有できればと思う。3市5町の観光施設で同じシステムで運営しているということになればさらに良いと思う。また、事業承継と人材確保が一番の問題であり、これこそ広域の枠組みで取り組まなくてはならない。長野県の東信地域では、広域で事業承継案件をデータで共有している。広域マッチングでないと事業承継が上手くいっていかないと思う。そちらのテーマが出た際にはまた発言させていただきたい。

委員 たまぷりをダウンロードしてみたが、すごく使いやすくて良いアプリだと思う。どの程度の頻度でメンテナンスしているのか、アプリのダウンロード数はどうかなど、次回の会議で教えていただきたい。

会長 インターネットで調べると、定住自立圏構想で、どこの地域がどのような活動をしているかすぐわかる。各自、ほかの地域について勉強していただきたい。

委員 成年後見センターの果たす役割について、どういう機能を持ってどうなんだというイメージがなかなかつかめない。上伊那に行ったということで、その事例などを簡単に紹介してもらいたい。

担当課（高齢福祉課） 上伊那は元々、成年後見制度への興味が高い地区だったと聞いている。そのため、広報というより、いかに相談機能を広めていくかという点で苦労があったと聞いている。置賜地域で一番取り組まないといけないのは、制度の周知と考えており、住民の方への説明会、わかりやすいパンフレットの作成、民生委員や介護事業所等への制度の広報が一番大きいと思っている。さらに、受け皿となる市民後見人の育成、弁護士や司法書士との横のネットワークの形成、制度を必要とする方の掘り起こしも必要になる。

4 その他

事務局 次回は年度末3月に開催を予定している。その際は全項目の進捗状況をご報告したい。また、次年度事業の実施に向けて予算等をビジョンに反映したいと考えており、その改定案についてもご説明をさせていただきたい。

5 閉会

事務局 以上で、第1回懇談会を終了する。